

柔軟な頭脳で挑戦する 博士人材を送り出す



東京海洋大学
キャリア開発室 特任教授
塩谷和実



東京海洋大学は、ともに創期130年有余の歴史と伝統を有する東京水産大学と東京商船大学が、2003年に統合して誕生した。本学は、我が国唯一の海洋系総合大学として、「国際的に活躍する産官学のリーダーを輩出する大学」を目指している。

学部生は約2,000名であるのに対し、修士課程約500名および博士課程約160名と大学院への進学率が高く、海洋科学技術の高度な研究を目指す外国人留学生が約160名含まれている。

本学の特徴として、産官学一体で海洋・水産・海事分野の研究や事業全般に貢献してきた歴史的背景があり、就職率も極めて高い実績を上げてきた。

1 キャリア開発室の設立

しかしながら、ポストドクターおよび博士後期課程在籍者へのキャリア形成支援は必ずしも十分ではなかったのが実情である。90年代から全国で進められた大学院重点化等の結果、博士課程修了者が増加したことにより、ポストドクターは全国で1.6万人以上いるといわれている。

本学は、2011年に文部科学省科学技術人材育成費補助金「ポストドクター・インターンシップ推進事業」に採択され、キャリア開発室を設立して「海

洋関連人材キャリアパス開発プログラム」を開始した。

具体的には、博士前期・後期課程に「高度専門キャリア形成論」講座を開講するとともに、長期インターンシップ制度やキャリア相談等の支援体制を充実することで、ポストドクターおよび博士後期課程在籍者を中心にキャリアの多様化を目指している。

2 キャリアデザイン講座をシリーズで実施

博士号保持者および取得を目指す学生たちに、「将来にわたって、自身のキャリアを切り拓く能力を涵養する」ことの重要性を説くため、ケーススタディを多用したキャリアデザイン講座を「高度専門キャリア形成論」の中で継続的に実施している。

また、博士号を取得して社会で活躍しているOB・OGの事例紹介、および長期インターンシップ体験者の発表や連携企業各社との情報交換等によるワークショップは、これから社会に出ようとする若者の不安を払拭し、自信をもつきっかけとなっている。

本事業開始後3年が経過したが、長期インターンシップへの参加者および長期インターンシップ体験を経て民間企業に就職するケースが着実に増加している。

3 企業との連携強化

本学の卒業生は、海洋・水産・海運業界は言うに及ばず、それ以外のさまざまな業界で活躍している。また、本学は後進の面倒見が良いという伝統があり、業界各社との連携も強い。

キャリア開発室では、定期的な企業訪問を通じて企業側のニーズを汲み取るとともに、十分な面談時間を取って個別の進路希望を把握したうえでマッチングを実施し、長期インターンシップへの派遣を行っている。企業およびOB・OGとのネットワークの重要性を踏まえて、今後も連携企業の開拓を積極的に推進していきたい。

4 地道な啓蒙活動とキャリア面談の推進

日本の少子化問題から派生した大学教員や公的機関研究者の大幅なポスト減少は、研究職を目指してきた者に、民間企業への進路変更という大きな決断を迫っている。次代を担う博士人材は、現場と理論の両方を知ることが不可欠となっている。講義とキャリア面談を通して、民間企業の研究開発現場で働くことの意義を啓蒙し、柔軟な頭脳で挑戦することができる博士人材を世に送り出したいと考えている。